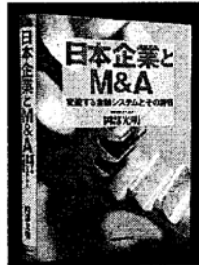


日本企業とM&A

慶應義塾大学
総合政策学部教授

岡部 光明

企業のM&A(合併と買収)は、いま最もホットな課題の一つである。M&Aを一層拡大させるため日本では障害除去に取り組むべしとの議論がある一方、そういう主張には何か違和感を感じる企業経営



者も多い。本書は、この問題に一つの体系的な分析と主張を展開したものである。三つの特徴がある。

第一は、M&Aを企業論お

行間を語る

M&Aを多面的に解明

よび金融システム論の接点に位置づけることによって幅広く、かつ深い次元から議論したことである。総合政策的アプローチといってもよい。

第二は、従来のM&Aが企業経営(とくに経営の安定性と効率性)に与える効果を実証的に明らかにしたことである。日本企業に関するこの面での有力研究は従来見当たらないと思う。第三は、要請される公共政策の課題ならびに企業経営にとっての課題を具

体的に指摘したことである。本書は四百ページ近い大冊であるが、序章において全体を要約してあるの

で、まずそれによって書物の全貌(せんぼう)を的確に把握していただけたらと思う。そして、どのような分野ないし立場の方でも、本書の主張と結論には目からウロコが落ちる思いで納得していただけたらと期待している。

(東洋経済新報社、本体四千円、税抜き)